

令和6年度自己評価計画書[最終]

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
1 基本的生活習慣を身につけ、自己の研鑽に努め信仰の薫育、奉仕の精神を養うとともに「公德心」を育成する。	① 合掌と讃歌、瞑想の朝礼礼拝を行い、一日の学びの始まりに心を落ち着かせ、自分を見つめる。朝礼時の担任から生徒への語りかけは薫習の場とする。	宗教科 学担会 総務	SHが「自分自身を見つめる」時間となっている A よくあてはまる 55% B まあまああてはまる 38% C あまりあてはまらない 1% D あてはまらない 1%	C・D評価が10%以上 においては、内容を検討する。 A	調査を始めてから、A回答(1年54%・2年51%・3年61%)で各学年が最高値を占めた例はない。それは8時半登校指導が定着し、落ち着いた状態でSHを迎えられているからと推測する。ただ朝礼礼拝では作法はできてはいるが発声に物足りなさを感じる。発声を抑制されたコロナ世代ということがあるのかもしれないが、繰り返し説いて礼拝行事にうたが声に戻るよう促していきたい。
	② 宗教の授業や宗教行事(花まつり、報恩講)を通して、自己の内面を省みる。	宗教科	自分の内面を省みて生き方を考える時間となった A よくあてはまる 44% B まあまああてはまる 46% C あまりあてはまらない 7% D あてはまらない 2%	C・D評価が15%以上 においては、内容を検討する。 B	花まつりでは盲目的なテナー歌手新垣勉さん、報恩講ではパラリンピック生みの親グッドマン博士を紹介した。障害という「望まぬこと」との出会いを通して、力強く自分らしく生きる姿を学んだ。思い通りに生きられないことや、マイナスしか捉えられない人間の煩惱に気づき、マイナスこそが豊かな自分に気づかせてくれる根っこだと語り、生徒達の心につながったと思われる。
	③ 本校の根幹である宗教教育についての認識を深める研修の機会を持つ。	宗教科 第1学年	宗教教育の認識を深める有意義な研修となった A よくあてはまる 64% B まあまああてはまる 31% C あまりあてはまらない 0% D あてはまらない 0% E 参加していない 0%	C・D評価が15%以上 においては、内容を検討する。 A	学年団の生徒への意識づけ、宗教科教員の現地での適切な指示により、落ち着いて取り組めた。講師の講義においては、東日本大震災のピンチや就職進路のピンチについて、そこで学びや考え方が実体験として語られ、生徒達の心に響いたと思われる。
	④ 基本的生活習慣の定着を目指し、生徒の心に届くよう、我々教師が率先垂範を心掛ける。また、自己肯定感を養い、生徒の心に火をつける指導を目指す。	総務 教務 生徒指導	基本的生活習慣が定着していますか A よくあてはまる 63% B まあまああてはまる 30% C あまりあてはまらない 6% D あてはまらない 1%	C・D評価が15%以上 で指導体制を強化する。 A	基本的生活習慣には「身体」「心」「時間」と言った3つの構成要素があり、「規則正しい生活習慣」「挨拶・身なり指導」「時間厳守」について問いかけ平均値を算出した。気になるのは、1年生の私物管理で施錠を時々忘れる生徒が多く21%を占めた。盗難防止という観点から施錠習慣を説いたり、基本的生活習慣こそが主体的な生き方の基盤となることを伝えていきたい。
	⑤ 掃除は共に学ぶ場の確認であり場への尊敬である。「掃除は自分たちの生活の答案である」と伝え奉仕と思いやりの心を育む。	総務 生徒会 生徒指導	普段の清掃活動を振りかえりどう思いますか？ A 綺麗に行き届いている 46% B まあまあ行き届いている 47% C あまり行き届いていない 5% D 行き届いていない 1%	C・D判定が25%以上 において内容を検討する。 B	校舎が建て替えられ13年目、室内環境は少しずつ材質の劣化や汚れが目立つようになり教室床も研磨修繕が行われた。10年20年後を見据え、恵まれた教育環境の維持と、そこから導かれる心の成長を求め、普段の清掃活動や取り扱いに目を向け、環境整備や保全につなげなければならないと感じる。教育は環境から始まり人を育むことを大切にしていきたい。
	⑥ 幅広い読書を意欲的に行うことで、思考と情操を深め、自らの人格形成に生かす生徒の育成を図る。	図書館 国語科 総務	読書週間を通じて、読書に親しむ習慣は増えましたか A とても増えた 34% B まあまあ増えた 31% C 変わらない 26% D ない 6%	D判定は意欲を促進 する内容と活動を検討 する。 A	生徒に読書する習慣を持って欲しいと願い、学期ごとに読書週間を設けている。中間調査はA・Bともに30%を割る解答であった。最終調査では学年別でA・Bともに30%を超え、6割強が読書に親しむ習慣が増えたとの回答であった。これからも読書週間をきっかけとしながらも、読書は「趣味・教養・新たな感性を見出す」良い機会だと伝え啓発し促していきたい。
1 学校関係者評価委員会の評価	重点目標の「公德心」を育む教育活動に感謝いたします。特に①～⑤の取組がA,B判定で9割を占めていることは素晴らしいと思う。生徒達はその思いをしっかりと受け止め実践している様子をうかがえる。また、改善点の着眼も良いのではないと思う。⑥のA判定とありますが、「本に親しむ習慣が増えた」が7割弱とは少し残念に感じる。ペーパーレスの世の中になり、端末画面ですべてを得られスクロールで処理することよりも、直に紙に触れ目で文字を追うということは、脳への刺激はもとより人間として大切な作業だと思うのです。環境整備についても概ね好感は持てますが、少数意見から感じる清掃活動からの教育を謳い、生徒達が気持ちよく教育活動に打込める環境教育も宜しく願います。				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
2 各コースごとの目標に沿った「学びの保障」を目指し、指導力の向上に努め、生徒一人ひとりの進路実現に対する個別指導を重視し、学習意欲の涵養に努める。	① 各教科において、興味、関心、意欲を引き出す授業の確立に向けて、教材の精選と指導法の工夫改善に努める。	教務 (研修) 教科	授業の工夫を実感している生徒の割合 A よく工夫されている 45% B まあまあ工夫されている 47% C あまり工夫されていない 5% D 工夫されていない 1%	C・D判定が25%以上において教務課を中心に改善策を検討する。 B	A回答で1年33%、2年43%、3年58%と学年での違いがみられた。進路実現に向けて授業に対する意識調査でも、1年40%、2年44%、3年64%とやはり学年別で違いが顕著に表れた。当然ながら上級生になれば進路実現に向け具体的な目標に向き合う姿勢に表れ、各教科指導に対する評価にも繋がっているように思える。教師集団として生徒達の進路実現にしっかりと応えられるよう、これからも自己研鑽に励み生徒達に還元していく。
	② 生徒達への「学びの保障」の実現に向け、指導力の充実を目指し自己研鑽に励む。	教務 教科	指導力向上を目指し自己研鑽に励んだ A よくあてはまる 46% B まあまああてはまる 46% C あまりあてはまらない 4% D あてはまらない 1%	D判定が30%以上で実施の内容、指導方法を検討する。 A	上記にも示したが、3年生の意識がとて高く表れ、全学年の平均値を大きく引き上げ左記の通りとなった。本校の取り組みの一つである『学びの保障』を掲げ、生徒達に寄り添い一生懸命に向き合ってきた先生方のご努力の賜物と言える。これからも教師間の情報交換や指導方法を共有しながら指導力向上に繋げていきたい。
	③ 普通科の教養、ビジネス、進学特進の各コースと体育科の特色あるカリキュラムをより顕在化するように研究と指導に励む。	教務 各コース	生徒達の取り組みについての自己評価 A 意欲的に取組めた 51% B まあまあ取組めた 42% C あまり取組めなかった 4% D 取組めなかった 1%	C・D評価が25%以上において内容を検討する。 A	各コースの特色を示し目標設定を明確にして、それぞれの取り組みに対して生徒達に問いかけた。事前、事後指導やポートフォリオ(振り返り)を活かし、我々と共に自己評価を繰り返しながら主体的に取り組めるよう、これからも各コースのニーズにあった指導を模索しながら検討を重ねていきたい。
	④ 各学年において、一貫したキャリア教育を通して、職業観や勤労意欲の育成に努め、よりよい進路選択の一助とする。	進学 就職	実施された進路指導(進学・就職)が A とても役立つ 53% B まあまあ役立つ 40% C あまり役立つなかった 5% D 分からない 1%	C・D評価が25%以上において内容を検討する。 A	実施している進路・就職に向けてのキャリア指導が、進路を考えるうえで、A「とても役立つ」と53%を超える回答があった。業者との連携や新たな提案の中で行った成果と言える。当然、高校生活をスタートしたばかりの1年生の意識は低いが、学年ごとに上がる傾向を示している。生徒の志望や可能性を把握勘案し、内容も精査しながら進路実現の一助としていきたい。
	⑤ 「総合的な探究」の時間を活用し各コース、科でのガイダンスやH担任との面談が、進路実現に向けて意識を高めている。	教務 学年	進路指導において担任との面談が A とても役立つ 51% B まあまあ役立つ 43% C あまり役立つなかった 3% D 分からない 1%	C・Dのいずれかの回答が25%以上の場合、面談の回数・あり方を検討する。 A	3年生のA回答で65%を示した。各コースの年間計画に沿って「総合的な探究」の時間を活用して実施してきた成果と言える。また担任の先生方においては、多忙の中そして生徒数が増え面接時間の確保に苦労をされていたが、生徒達の感謝の思いがこうした数値に現れたように思う。これを励みに生徒達に向き合う時間を惜しまなく大切に取り組んでいきたい。
2 学校関係者評価委員会の評価	判定基準通り、先生方の生徒達への向き合い方が進路指導に反映された結果だと感じる。スポーツ活動においてとても顕著な成績を収めており、学業においても国公立大学や難関大学への進学も目覚ましい進路実現を成し遂げているし、就職率も100%を達成した。1年時に迷っている生徒達も、先輩方の実績を目の当たりにして、将来を考えられる状況になっている。意識調査では、ほぼ半数が好意的な感想だったにも関わらず、次年度の改善策を検討されていることは素晴らしいと感じます。次年度の展望に向け思いのままに取組んでいただき、生徒、保護者の期待に応えられる進路指導に期待します。				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
3 地域に根ざした学校であることを認識し、生徒・保護者・教職員そして地域の方々の四者が、敬愛と信義の念を持ち連帯感を大切にする。	① 「花見まつり」や「宗教・公開講座」を開催し、地域の方々との交流を通じ、本校との連帯感を深める。	総務 保健体育 生徒会 PTA	本校の教育活動が地域に A よく理解していただいている % B まあまあご理解していただいている % C あまりご理解していただけていない % D 理解していただけていない %	C・D評価が25%以上 において内容を検討 する。 アンケートの実施なし	地域の方々を対象とした4月の花見まつりでは約250名が来場し、宗教公開講座では毎回30名を超える方々が聴講されている。このような形で行えるのは本校ならではの地域の方々とのふれあいで、本校への興味・関心から理解・支援へと変化していることを直に感じる。これからも「地域に根ざした学校づくり」を推し進め連帯感を深め教育に繋げていきたい。
	② 登下校時、通学路として使用している学校周辺道路を、全校生徒で清掃活動を実施し、行政企画の「わが町美化ピカ隊」への参加とする。	総務 全学年 (PTA)	校外奉仕活動に対して生徒の自己評価は A 積極的に取り組めた % B まあまあ取り組めた % C あまり取り組めなかった % D 取り組めなかった %	C・D評価が30%以上 において内容を検討 する。 アンケートの実施なし	遠足に校外奉仕活動を組み入れ、各学年コースで工夫を凝らし行い現状の環境美化を見直すきっかけとなった。そのほかに部活動単位で粟津駅構内や周辺地域のゴミ拾い、また冬季降雪時には近隣生活道路の除雪を行うなど、共生する地域への思いに気づかせ多くの感謝の言葉とともに、生徒達の心に「奉仕の芽」を育む様子をうかがう事が出来た。
	③ 交通安全対策を積極的に推進するとともに、交通マナー向上に努める。また、蛍光タスキを配り夜間の安全を確保するとともに雨具の携行を義務づけている。	生徒指導 生徒会	交通マナー、モラルについて自己評価は A きちんとできている 78% B まあまあできている 20% C あまりできていない 1% D できていない 0%	C・D判定が10%以上 で指導体制を強化する。 A	年間通して登下校時での大きな事故や問題点はなかった。ただ、下校時の蛍光タスキの着用率が落ちていることから、部活動の先生方に依頼し着用を呼びかけて頂いた。また後期、部活動も一息つきIR利用者が増える10月を起点として、各学年と指導課で駅の利用マナー啓発として下校時に目を向け指導を行った。冬季の雨天時で駅舎に身を寄せることは構わないが、視野を広げ他の利用者にも譲り合える思いやりを伝えていきたい。
	④ 危機管理意識を高め、事故防止と発生時の対応に万全を期す。また、頻発する自然災害に対し、防災教育を見直していきたい。「三大訓練の実施」	総務 保健体育 生徒指導	危機管理に関する校内教員研修・訓練を A 年間3回以上行った B 年間2回行った C 年間1回行った D 行わなかった	C・Dにおいては日程・内容を検討する。 B	防災訓練において、「非常時の対応や学校生活での避難行動を学ぶよい機会になった」と意識調査では66%の高い回答を得ることが出来た。身近に起きた震災の怖さを直に触れ、他人ごとでは済まされない現実を感じているようである。本校校舎の耐震性は高いが、地震の初期対応、避難行動、人員の確認など、想定外の事態も含めさらに検討を進め防災意識を高めていきたい。
	⑤ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことで、生徒の様子を直にご覧いただき、保護者との連携・支援を図る。	総務 生徒会	本校の教育活動を A よく理解することができた 53% B ある程度理解することができた 47% C あまり理解できなかった 0% D 理解できなかった 0%	C・D判定が15%以上 で日程・内容を検討 する。 A	2学期末保護者対象：教育活動の理解度アンケート(回答率42%)より、「生徒一人ひとりを尊重し、個性の伸長を図り、社会的資質や行動を高める」指導にA回答、「学習の定着を図る工夫や進路指導に対して」はB回答であった。また、本校に期待することとして、①進路指導、②学習指導、③課外活動の順にあげられ、「生徒達がイキイキと学習や部活動に励んでいる」といった特徴を抱かれています。
3 学校関係者評価委員会の評価	③の交通マナーは十分良いとは思いますが、通学路がなにせ狭く路地から出てくる自転車には、分かっているもヒヤとすることもあった。また、蛍光タスキと合わせて反射テープなどで着用しながらない生徒の対応策にどうだろうか。調査結果で生徒達の自己評価と近隣住民の意識の差はあるかもしれない。保護者の送迎も含め注意していきたい。地域の方々に支えられていると思える生徒達の活動をよく見かける。先生方の思いを受取、率先して地域貢献に励む姿にとても好感を抱く。先生方が生徒一人ひとりに向き合っているおかげだと感謝している。				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
4 生徒会活動のより活発化を目指し、自治的な取り組みを充実させ、自主・自立・協調の精神を育成し、心身の健全な発達を求める。	① 生徒自身が活動をとおり、人間関係の構築や学習意欲、また自己肯定感や連帯感の育成に役立っている。各部署員数の飽和状態にあるが、意義を求め活動の充実・向上を図る。	生徒会 第1学年 学年	指導方針や活動内容に充実感を抱き A とても満足している 53% B まあまあ満足している 27% C あまり満足していない 3% D 満足していない 1% E 所属しているが、参加していない 4% F 所属していない 10%	C・D評価が10%以上 において指導体制を 検討する。 A	部活動入部率93%(運動部59%・文化部34%/4月現在)と例年通り高い入部率が示された。また中間調査でA回答54%は過去最高値である。高体連より県高校総体学校別総合成績で男女総合4位(男子5位・女子4位/高野連を除く)の発表があった。近年、高校選別に高校卒業後の進路実現と、もう一つ部活動指導に期待を持った生徒が増えているように感じる。ひとえに文武両輪を謳い各先生方のご尽力のお陰であると認識している。これからも夢を抱いた沢山の生徒達と共に学び大切な時間を過ごしていきたい。(運動部14 / 文化部 11 / 社会体育3 / 社会文化1)
	② 生徒一人ひとりの生徒会活動への参画意識を高め、生徒達自らの意見を十分取り入れた活動を行っている。	生徒会 学年	生徒会行事に積極的に参加し楽しめましたか? A 積極的に参加し楽しめた 61% B まあまあ参加し楽しめた 34% C あまり参加できず楽しめなかった 3% D 参加できずに楽しめなかった 0%	C・D評価が30%以上 において活動のあり方 を検討する。 A	前期では学園祭(文化祭・体育祭)の成功を願い、執行部が牽引し生徒一人ひとりの参画意識を高め、無事盛況のうちに終えることができた。今年は能登震災募金を謳いキッチンカーを招き、その売り上げの一部を支援金として募金活動に繋げた。また猛暑に対し体育祭を半日日程の2日間開催で熱中症対策を講じ、競技内容も充足感を損なうことなく有意義なものとなった。状況を鑑みて執行部の工夫を凝らしたマネージメント能力が発揮された。
	③ 公安・保健委員会による挨拶運動や交通安全啓発活動としての呼びかけなど、生徒達自ら行動に繋がられるよう働きかける。	生徒会	自己管理能力や規範意識の定着度 A きちんとできている 56% B まあまあできている 37% C あまりできていない 6% D できていない 1%	C・D評価が30%以上 において活動のあり方 を検討する。 A	近年、落とし物、忘れ物の引き取りが少ない現状がある。ここでは自己管理能力として、私物の管理・整理整頓/貴重品の管理施設について問いかけた。調査では特に1年生でロッカーの施錠を忘れる様子がうかがえ、社会に出ては当たり前前の危機管理として是非身につけてほしいものである。また、私物の整理整頓も必要な能力であり、将来において生活の潤いや、作業効率にも繋がるものとして理解させていきたい。
	④ 鑑賞や創作を通して情操陶冶と健やかな人間形成に役立てる。	生徒会 国語科	豊かな情操を育むことに A とても役立った(楽しめた) 44% B まあまあ役立った(楽しめた) 49% C あまり役立たなかった(楽しめなかった) 5% D 役立たなかった(楽しめなかった) 1% E 不参加 1%	C・D評価が25%以上 において活動のあり方 を検討する。 B	調査・判定は短歌俳句大会についてである。表現及び鑑賞活動を通して、感性を働かせ創り出す喜びを味わうとともに、短歌・俳句の創作においての基礎的能力を培い、豊かな情操を養うことに繋がっていきたく考える。短歌俳句大会では、国語科での指導の定着と生徒達の行事への前向きに取り組む姿勢で個性豊かな作品が多く見られた。また、高文連文化教室は小松市公会堂の借用不可により開催は見送ることとなった。次年度は会場の収容人数を考慮しながら、午前・午後の分散開催を検討している。
4 学校関係者評価委員会の評価	部活動とは運動及び文化活動において、自分自身の趣味を活かし、教養を高め、豊かな人間性や身体的発達を養うものである。運営はもとより、成績や功績を持続し続けるための先生方の努力や指導によって生徒達の強い意欲をととも感じることが出来る。逆に生徒達の意識調査でももう少し高い値が現れるかと思いましたが。また学校行事では、生徒会執行部を中心に同じ方向へ向きながらも、さまざまな活動を試みる様子もうかがえる。③については学校側と共に親の課題として受け止めました。判断力や行動力・自己管理能力は社会人として自立に向けて大切な要素であると認識しております。どうか今後も規範意識への指導を継続していただきたいと強く願う。				